

幼稚園の遊戯に就て

麴町幼稚園長 土 川 五 郎

一、表情遊戯の缺陷と其改良

現今幼稚園で行はれて居る集團的遊戯の重なるものは表情遊戯である。

この表情遊戯は種類として随分澤山あるけれども一幼稚園としては二三十種に限られて毎年々々繰返す方が大部分である、而して毎日々々お定まりの如く、鳩ぼつぼつから金太郎それから何次に何と千變一律であるが故に、先生も氣分から、からだ迄ゆるみ切つて緊張の様子が更に見えぬ幼兒は「そら又か」といつた様な顔付で始める、そして其動作中にさもうれしさうな笑顔は少しも見えぬ、暫くすると止めるのもある、あくびも出る、こゝに於て先生の冷靜な觀察を要する、果して幼兒は愉快を取りつゝあるか、眞の遊戯の意味が表はれ

て居るか、必ず思ひ半ばに過ぐる感があること、思ふ。

そも何故に表情遊戯が幼兒に飛び付かれる様に歡迎せられざるか、かくの如く一般からも、厭きられて、何となく物足らぬ感じを起さるゝ様になつて來たか、こゝを探究して見る必要がある。私は少なくとも次の五點が其主因ではあるまいかと思ふ。

第一、表情的動作即ち運動が萎縮して居る

元來幼兒は原始的であるから基本筋肉を思ふ存分に使はねばならぬ、十分に大なる運動をすればそれによつて一層大なる快感を得るものである。

然るに之と全く正反對に其動作が小さくて且萎縮して居る、この爲めに快き感情も起らない。これ幼兒

に喜ばれない第一因である。

第二、活動量に不足の感がある。

幼児は活動の最も盛んなものである、動物は幼年なるが故に遊ぶにあらざる遊ばんが爲めに幼年期があるといふ詞は眞理である。而して幼児の最も好むものは跳ねる、飛ぶ、駆け廻はることである、歌を唱ひつゝ表情をなす遊戯には此種の運動はやりにくひので自然に其分量を減じ若くは使ふ譯にゆかぬから現今の表情遊戯には此の運動は極めて稀である、幼児の最も好む否自然に身體發育上要求する此の運動を避けねばならぬ所から幼児の要求に對し満足を與へられぬ。これ其第二因である。

第三、運動感覺を忘れて居る。

表情遊戯を作るに最大切なのは運動感覺である感情から筋肉を動かすと共に運動感覺から情緒を惹起することが出来る。此の重要なものによつて其氣分も出る、其感も強める、これを考へずして其

歌に含まれた氣分を持たせ様といふ事は木によつて魚を求むるに似て居る、其氣も出でず其感も浮ばずしては遊戯者自身面白くないのは無理でないこれ幼児に適しない第三因である。

第四、表情が主知的に傾いて居る。

歌の意味が自然と動作に表はるれば情緒がうまくそこに由て來るもので、情緒的に其動作を付けると、それは自然と合致して如何にもよい氣持ちになり自から其氣分が出て來るものである。然るに之れを表出するに困難なる個所があると、先生が寄合つて種々と苦心し、こうしたらよいか、あゝしたらどうかと考へに考へた末は不自然なるものを案出する、知らず識らず主知的に落入つてしまふ、而してこれを幼児に與へて見ると骨が折れて面白味がなく遊戯の本質と大層懸けはなれた物となる、之れ幼児に適しない第四因である。

第五、歌と曲との不適合

歌へば歌ふ程何とも云へぬ味のあるものと歌ふ

に従つてあとに糟が残る様で何んだか砂利をかむ様に感ずるものと此の二通りがある、而してこの撰擇がよく行はれて居ない事がある、何かよいものをとあさつて居る時は、擇ぶ目がやゝもすると低下するので後者の方に札の落ちることがある、幼兒を忘れ先生自身のみ大に感心して文學的にも拙劣で、しかも長きに失した様のもを擇び出す加之近來の歌詞はどうも面白くないのが多い、幼兒に何等の喜びも起らず美しき感じも起らぬ。

聽覺から入る音響が如何にも其氣分を生み出す様な、幾度か繰返すに従つて面白さが増して味ひがあるといふ様な曲が少ない。

歌詞に曲を付すると其歌の意味氣分を表す外に其詞の發音調子にも合せねばならぬ、此の點に捕はれて、表情を爲すに都合よい調子といふ事が忘れられてしまふから、其動作と曲とが一致して行かぬ、曲が自然と筋肉を動かす様な妙味(遊戲の)が缺けて居る。現在幼兒に與へて居る歌曲で其が

撰擇十分に行はれて居ないものがある様に見受けらるゝこれは其第五因である。

以上述べ來つた五つの原因がある爲めに表情遊戲が物足らぬ事になつて來たのではあるまいか、表情遊戲の改良を要する點は實に茲に存在して居るのではあるまいか、

要するに表情遊戲は其歌曲の幼兒に適したるもので且表情に最都合のよいものを擇んで其表情の仕方を自然的に表情的に然も幼兒本位に表出させたい、而して其運動が基本筋肉を働かして思ひ切つて大なるものでなければならぬ、且つ幼兒が表情をなす事によつて其歌の意味其氣分が持來さるゝ様に運動感覺を考へて貰ひたいと思ふ、尙出來得るだけ其表出が體育方面に利のある様に仕向けて欲しい、併しこれに偏すると優雅、自然と背馳する所が出來るから、體育的にして然かも表出に有利であるものに限らねばならぬ。

二、遊戲の傾向

現今我が保育界に於て集團的遊戯としては表情遊戯の外に三種ある、一つは歩み方を曲に合致せしめて巧みに足の運動をなさしむる仕方ともう一つは外國のフォークダンス Folk Dance であるこれ等は或種の幼稚園に限られて行はれて居る、尙一つは幼兒全體が同じ動作をするのでなくて、幼兒を幾つにも分けて各役目を異にして、此等の組が各遊戯の一部を受持ちて一つの遊びをなす、これも行はれて居る範圍が一小部に限られて居る。此の三種の遊戯は全國の幼稚園に對しては至つて微力なものである。

第一の曲と歩み方を一致せしめ、曲が變ると直ちに歩み方を更へる、之れにはまた快適な氣分を起させる様な曲を擇ぶ事が缺けて居る。唯曲が動作を更へる合圖となる位の程度にある、従つて幼兒の自身の快樂よりは寧しろ見るものが感心をするのである、第二のフォークダンス即民踊は其曲に中々よいのある併し動作は何百年を經過する

間に風俗を異にした文化趣味が加はつて原始的な所が影をうすくして來て居る、それ故に其儘我國に移すのは考へものであるし幼兒にはもつとく原始的でありたい。第三のは少數の幼兒で極めて落ついた遊びとしてはよい點もある、之れに歌が伴ふのであるが其歌と曲とは純日本的になつて居ないから、情を表はすには適切でない、こゝに改良の餘地がある、又活動といふ方面から見ると頗る不十分で陰氣な遊戯で且主知的な所がある。

以上の遊戯が何れも満足の出來ぬ點があるとするれば、之れが改善を計る事が急務であると共に現在及將來に於て大勢の赴く所をも考へ、且一般の要求も參酌して行かねばならぬ、

今や教育界の主たる問題は戦後の教育は如何にすべきかと云ふ事である。此問題に於て何人も異口同音に唱ふるものは國民の體育である、既に小學校は多大の費用を投じて體育上の施設をして居るかゝる時に際しては兎角幼稚園は小學の影響を

受け易いものである、聞く所によればある幼稚園では表情遊戯については前に述べた様に倦きられて體操の一部を加へた所もある。又將に加へんとして居る所もあるといふ事である、若し果してこれが事實であるならば保育上由々敷大事と云はねばならぬ。

なる程近頃識者の間には情的方面と體育上と及び眞の遊戯の意味から考へて從來の遊戯の價値について疑を挟んで來る様になつて來た、のは事實である而かも一面には體操熱が盛になつて殊に小學に於て最も甚しきを見るに至つては、保姆諸君もこれを如何にすべきやと大に苦慮せられて如上の如く體操をかつぎ込む様な事にもなるであらう乍併如何によい物でも、精撰された物でも幼稚園としては保育といふ胃囊とよく消化して後でなければ幼兒には與へてはならぬ。

抑も體操は意志的のものである。精神を休むるものでない、寧ろ過勞するものである、而かも身體

の發育未だ十分ならざる幼兒には到底之れを課するに堪えられぬ、小學兒童すら尋常三年以上でなければ課さぬ事になつて居る、これは生理上危険があるからである。これを自由と快樂とを缺くべからざる條件として居る所の遊戯に比べて見れば全く反對である事が明瞭である、遊戯の眞の意義を了解して居る者は決して之を遊戯中に加ふる事は爲し得ぬのである。

乍併體育上の事は看過すべきでない寧ろ幼稚園として大に攻考すべき重要な問題である。

三、合理的遊戯

「遊戯は活動其ものが享樂せらるゝものでなければならぬ」といふ詞は最も味ふべきである、前述したる如く表情遊戯を改むるも體育上の運動を加味するにしても此の詞より離れてはならぬ、迷ふこと勿れ、須らく遊戯の本質に立歸れ、今一般に其本義から遠ざかり行く、速かに立歸れ、と云ふより外はない。

此の意義によつて左記の注意が生れて來るのである。

(一)運動

イ、基本筋肉を動かせ而して出來得るだけ大きく
ロ、幼兒は隨意の遊戯にのみ任せ置けば胸腹背横
腹の筋肉を使用する事が極めて少ない、無意識
の間此等の筋を使ふ様に運動せしめねば均齊
な發達は遂げられぬ、

ハ、脚を強くせよ、そは心臟肺臓を強くする所以
である。

ニ、出來得る限り戸外に於てせよ、而して酸素を
十分に得せしめよ。

(二)快感

氣分の快不快は生理上大なる差違あり。

イ、快き氣分は呼吸脈膊の變化、血管の擴大、運
動の能率増加、消化力の旺盛を促すものである

ロ、基本筋肉の運動は快感を増す

ハ、運動感覺によつて快感を増す

ニ、音樂によつて快感を生ず、

ホ、室内の清潔と裝飾とによる

ヘ、保姆の氣分と容子は幼兒に快不快何れかの感

を與ふる有力なるものである。

即ち活動中の精神の愉快と之れに伴ふ運動とが具
備せられて然も戸外に於てなざるならばその遊
戯は實に其本義に合致したものである。

此の條件にあてはまつた遊戯が、面白き音樂によ
り拍子よく運動をすれば、實に幼兒の喜ぶ所とな
る、しかも其運動が簡單で且幼兒の好む所の各種
の運動が入れられたものであるならば、幼兒は無
意識的に楽しんでなす事が出来る。

今夏文部省の講習で致しました遊戯は此等の意
味によつて作られたものの内を擇んだのでした。

講習員の方があの酷暑に少しのゆるみもなく、
尙進んで練習を要求せられたのは其熱誠も十二分
であつたからであるが遊戯其ものと曲其れ自身と
が快感を與へた事も尠なくないと思ふ。

尙私の經驗によれば小學の一年から六年迄課して然かも大なる喜びを以て持續されて居ます、そして遊戯の時間を楽しんで居るのです、これは主として運動と曲によつて快感を與へらるゝのでありませう。

遊戯は元來爲す所のもの自身^{〇〇〇〇}が楽しくて止められぬものでなければならぬ、決して見る爲めの遊戯であつてはなりません。

序に小學校の方面について一言申して見ませう
小學校の一二年は小學校令の示す所によると遊戯が主となつて居ります、從來家庭から直ちに來た兒童も幼稚園から來たものも一團として何等根據なき表情遊戯、行進、整列、競技位のを定められた時間に行ふのである、それで一二年兒童の體育は如何にすべきやと云ふ問題は未だあまり攻究されて居らないと思ふ。

又上級の女兒には行進遊戯と名けてコチロン、カドリール、ランサース等の内にある事をあちら

こらから集めて新しき遊戯を組立て、曲は只節の數が合ふ様なものを選んで、しかも見せる遊戯として兒童に課して居る、それで兒童は中々記憶に骨が折れて、樂しみは餘程熟練してから後でなければ得られぬ、而して暫くすると厭きが來てしまふ。

此如きものに重きを置いた學校の女兒に前へのべた遊戯を課して見ると殊に著しく興味が喚起されたことを感じました。

